

# 外国の教育事情に伴う留学の傾向

山崎 和也

(今西 薫ゼミ)

学生生活を通して留学を経験した人は少なくないと思う。実際、誰も大学や地元で留学を経験した人が友達であったり、知人であったりする。それぐらい留学は身近な存在となっているのが現状である。

そもそも留学の目的は人格の形成・完成を目指すためとされている。古来より学問修行や見聞のための人間の移動は盛んに行われており、とりわけ中世における大学の成立と発展は、民族・文化の異なる若者たちの留学に支えられてのものであった。さらにルネサンス期以降は、外国留学の教育的意義が強調されるようになり、外国への旅行や留学によって教育は完成するとの考え方がルソーなどによって確立され、留学する層も広がった。近代における留学は、欧米では依然として以上のような人格完成を意味していたのに対して、かつての日本など近代化を目指す国にとっては、国を代表して先進の文明を学んでくるといった気負いが加わり、現在の留学のニュアンスにもそのなごりが感じられる。これらの留学生は、自国に戻ってから政治・経済の近代化に大きく貢献した。

とりわけインド、ベトナム、カンボジア等の旧植民地諸国では、宗主国への留学生が中心となっていた。一般に、国が発展途上段階にあり、留学先の国との近代化の程度のギャップが大きい場合ほど、留学によって得た知識が生きる可能性が大きいといえるが、留学先が自国に比して顕著に先進的な国である場合には、留学費用などの点で、官費留学や社費留学などのシステムが整備されていないケースには留学が難しくなる。また、自国が発展途上の段階にある場合には、そもそも出国や留学先の入国に法律上、あるいは外貨持ち出しの制限など事実上の制限があり、経済的な制約が強い場合が多い。しかし、一部の国では学費が無料であったり、あるいは留学生に奨学金を出したりするところもあるため、発展途上国から留学す

る学生が多い。

## 1. アメリカ

### A. 教育制度

アメリカには、2年制と4年制合わせて4,000校以上の大学があり、大学の充実度は世界一である。

#### a. 2年制大学

アメリカの2年制大学 (Two-year Colleges) は約1,800校。これには公立のコミュニティー・カレッジと私立の短大があり、短期のプログラムも充実している。通常2年間の学部課程で準学士号を取得できる。公立の2年制大学はコミュニティー・カレッジ (Community Colleges) と呼ばれ、主に地域住民の税金で運営されている。特色は、広い分野にわたって特殊な技術・職業訓練を目的とした「職業教育コース」と、4年制大学に編入するための「進学コース」を提供している。年齢層が広く、生涯教育の場としても利用されている。また、州や地域によっては、高校中退者にも門戸を開放し、高校レベルの補習教育の後、正式にコミュニティー・カレッジのプログラムで学べるところもある。授業料が安く、入学に必要な成績や英語力の基準が4年制大学より低いので留学生にも人気がある。手に職をつけたい人や、4年制大学へのステップアップを考えている人に向いている私立の2年制大学はジュニア・カレッジ (Junior Colleges) と呼ばれ、宗教関係団体によって運営されているものと、独立した組織によって運営されているものがある。主に4年制大学への編入目的の一般教養コースを提供しており、中には編入率が高い大学もある。授業料はコミュニティー・カレッジより高いが、小規模で学生寮を備えた学校も多い。アットホームで、ケアの行き届いた環境で学びたい人向けと言える。

## b. 4年制大学

4年制大学は公立、私立合わせて約2,300校。総合大学、リベラルアーツカレッジ、単科大学の3つに大別され、学生数が1,000人以下の小さなものから、5万人位の大規模なものまで多様である。通常4年間で学士号を取得できるが、薬学・工学・建築学など、中には学士課程の修了に5年かかる場合もある。総合大学はユニバーシティ(University)と呼ばれ、州が予算を出す公立大学と、学生の授業料や寄付で運営される私立大学がある。研究者養成を目的として設立され、多彩な専攻分野や学位プログラムを提供している点が特徴である。公立大は、学生数2万人以上の大規模校が多く、その敷地面積も広大である。州の住民に入学の優先権があるため、州外扱いとなる留学生は授業料が高く、入学審査基準もやや厳しい。私立大は州の内外には関係なく、授業料はやや高めである。大規模な大学でも2万人以内で小規模の大学が多い。

アメリカの総合大学は専攻分野が細分化されており、日本で学べない専攻分野も数多くある。卒業までに必要な取得単位数は増えるが、途中で専攻分野を変えることはもちろん、関連分野で副専攻(Minor)を持ち、ダブルメジャー(Double Major)で同時に2つの分野を専攻することも可能。また大学から大学への編入もできるので、「大学には進学したいが、まだやりたいことがはっきりしていない」という人には最適である。単科大学(Specialized College)は、ビジネス、音楽・アート・ダンスなどの芸術、建築、エンジニアリング、看護学などの専門分野の教育を提供している大学である。日本ではジュリアード音楽院やファッション工科大学などが有名だ。芸術・建築系の大学への入学には、英語力や成績のほかに、個人の能力・技能を示す作品提出やオーディションが義務付けられる場合がある。学びたい専門分野がはっきりしていて、専門性の強い授業についていける人に向いている大学といえる。アメリカ

教育機関の名称	入学に必要な条件	取得可能な学位・資格
コミュニティー・カレッジ	高校卒業以上 英語力: TOEFL 133(450)以上が目安。TOEFL 97(400)で入学可の学校もある。	準学士号 Certificate Diploma
ジュニア・カレッジ	高校卒業以上 英語力: TOEFL 133(450)以上が目安。	準学士号 Certificate Diploma
総合大学	高校卒業以上 英語力: TOEFL 173(500)以上が目安。	学士号 Diploma
リベラルアーツカレッジ	高校卒業以上 英語力: TOEFL 173(500)以上が目安。	学士号 Diploma
専門/単科大学	高校卒業以上 英語力: TOEFL 173(500)以上が目安。ポートフォリオの提出やオーディションを求められるケースあり	学士号 Diploma 準学士号 Certificate Diploma (学校による)

## 外国の教育事情に伴う留学の傾向

の専門学校は、日本とはかなり雰囲気が違い、学位や資格の取得を目指す学生たちが学んでいる。課程は、1年、2～4年などさまざまだが、多くは「インスティテュート」、「カレッジ」という名称だ。ディプロマ（1～2年間）、准学士号（2年間）、学士号（4年間）、その上の修士号まで認定できる専門学校がたくさんある。

4年課程までである専門学校として、日本人にも人気が高いのは、パークリー・カレッジ・オブ・ミュージック。音楽関連のビジネス教育機関として知られる私立のカレッジで、ボストン郊外にある。1年間のディプロマコースから4年制のディグリーコースまでである。また、夏季プログラムには世界中から学生が集まる。そのほか、ファッションデザイン志望者に人気の、ニューヨークにあるパーソンズ・スクール・オブ・デザインなど多くの専門学校がある。ポートフォリオの提出と課題の作品製作、面接により入学が審査される。この学校も4年制で学位号を認定する。

## c. 大学の格付け

近年、日本でも、東大を頂点とする伝統的な大学の序列に代わって、学生の就職状況、高校の進路担当者たちの間における評価、所属教員が書い

た論文の被引用度、といった多様な観点から大学の評価を行い、それに基づく大学ランキングを行うおうとする試みが一般化しつつある。<sup>(1)</sup>

そして、日本でもその名が知られているようなアメリカの大学を中心に、どのようにランク付けされているのか、評価はどのような基準・方法に基づいて行われているのかを、U. S. NEWS AND WORLD REPORT 社が発表している。<sup>(2)</sup>

## B. 費用

日本人がアメリカに留学する場合一年間で約150万から450万かかると言われている。アメリカの大学は原則として寮生活で、毎年、学費・寮費・食費を一年分支払う。例外として、カンザス州の州立大学の一つであるエンポリア大学は日本人枠30人分の奨学金を用意しているので、学生の支払い分がたったの12,000ドルである（1ドル約100円として120万円）。3食の食費もついている。田舎の小規模の州立大学だからかもしれないが、安価であると思われる。反対に一番学費の高い大学は、殆どの人がその名前を聞いたことがあるハーバード大学である。言わずと知れた世界No.1の大学である。こうなると、名門校になるほど学費が高いと考えられる。また、都会は高いと

表1 アメリカ統合大学ランキング

大学名	ランキング	場所	種類	学期	学生数	場所	合格率	年間授業料
1	Harvard University	私立	ケンブリッジ(MA)	2学期制	6,678	都会	7.9%	\$37,012
	Princeton University	私立	プリンストン(NJ)	2学期制	4,981	郊外	9.9%	\$35,340
3	Yale University	私立	ニューヘブーン(CT)	2学期制	5,277	都会	8.6%	\$36,500
4	California Institute of Technology	私立	パサデナ(CA)	4学期制	921	郊外	17.4%	\$34,584
	Massachusetts Institute of Technology	私立	ケンブリッジ(MA)	4-1-4	4,153	都会	11.9%	\$37,782
	Stanford University	私立	スタンフォード(CA)	4学期制	6,532	郊外	9.5%	\$37,881
	University of Pennsylvania	私立	ペンシルバニア(PA)	2学期制	9,756	都会	16.9%	\$38,970
8	Columbia University	私立	ニューヨーク(NY)	2学期制	7,495	都会	10.0%	\$41,316
	University of Chicago	私立	シカゴ(IL)	4学期制	5,022	都会	27.9%	\$39,381
10	Duke University	私立	ダーラム(NC)	2学期制	6,496	郊外	22.4%	\$38,975

いうのは世界共通のようである。キリスト教系の大学は寄付が多く、比較的出費が少なくて済むところがあり、田舎の大学も安い。こうした理由もあり、アメリカの大学の殆どが田舎にある。

授業料 ※ 1 学年 = 9 ヶ月

大学の種類	1 学年の学費の目安
私立 4 年制大学	\$12,000 ~ \$30,000
州立 4 年制大学	\$9,000 ~ \$23,000
私立 2 年制大学	\$8,000 ~ \$20,000
州立 2 年制大学	\$4,000 ~ \$9,000

授業料は難易度の高い大学ほど高くなる傾向にあり、同レベルなら私立より州立の方が平均して安い。ただし、私立は奨学金が得られるチャンスが州立に比べると高く、学業面・生活面ともに手厚いサポートが受けられるという利点もある。

滞在費（生活費）※ 1 学年 = 9 ヶ月

	1 学年の生活費の目安
物価の高い地域（都市）	\$8,000 ~ \$15,000
物価の低い地域（郊外・田舎）	\$5,000 ~ \$8,000

留学中の滞在先はキャンパス内の学生寮が一般的。寮がなければ、ホームステイやアパートに滞在する。寮費には部屋代、光熱費、食費が含まれる。1 日 3 食付きの場合や、ミールプラン（食券）を選んで、食費を別に支払う大学もある。

## C. 留学傾向

### a. ハーバード大学と日本人

2010 年 4 月、米ワシントン・ポスト紙が「2000 年以来、米大学における日本人学生数が減り続け、学部生の数が 52% 減少、大学院生の数が 27% 減少した。昨秋、ハーバード大学の学部に入學した日本人はたった 1 人だった」と報じている。同紙によると、日本人が減少する一方、中国・韓国・インドからの留学生は倍以上に増加。同紙は日本人減少の理由を「学生の安定志向が高まり、冒険心が薄れたため」とし、日本は「草食動物（grass-eater）の国」に衰退したのだ、と論じている。

2010 年 4 月にハーバード大学とイエール大学

に合格した日本人学生数の総数は 10 名。ハーバード大学が 3 名、イエール大学が 7 名で、イエール大学の合格者数は過去最高だった。例年、イエール大学の日本人合格者数は 1 人から 2 人。7 人というのはこれまでにない増加で、「同年に限っては、日本人留学生は増加している」と言えそうである。

この 10 名の内訳は、3 分の 1 がインターナショナルスクール出身、3 分の 1 が私立の帰国子女、3 分の 1 が普通校出身（全員 ROUTEH の学生）であった。

1992 年度（'92 ~ '93 年）から 2008 年度（'08 ~ '09 年）のハーバード大学における日本、中国、韓国の 3 カ国の学生数は以下の通りである。これは学部と大学院を合わせた数字であるが、18 年間で日本が 174 人から 107 人と約 6 割に減少しているのに対し、中国は約 1.8 倍、韓国は約 2.5 倍に増加している。

### 【ハーバード大学の学部と大学院の生徒数】

1992 ~ 93 年度 → 2008 ~ 09 年度

日本人：174 人 → 107 人

中国人：231 人 → 421 人

韓国人：123 人 → 305 人

さらにこのうち、2008 年 ~ 2009 年の学部生の割合は、日本人約 4.6%、中国人約 8.5%、韓国人約 13.7%。つまり日本人は 107 人在籍しているといっても、そのほとんどは大学院生で、学部生は 5 人程度である。2009 年度の学部生の人数は以下の通りで、日本人は 5 人。中国人はその約 7 倍、韓国人は約 8 倍で、やはり圧倒的に日本人が少ないことがわかる。

### 【ハーバード大学の 2009 年度、東洋人の主な学部生数】

日本人：5 人

中国人：36 人

韓国人：42 人

Institute of International Education（国際教育研究所）によると、米国の大学で学ぶ日本人学生数（学部・大学院）は 2004 ~ 2005 年度の 4 万

## 外国の教育事情に伴う留学の傾向

2215人から年々減少を続け、2008～2009年度は前年度比-13.9%の2万9264人にまで減少した。一方、中国は同期間に6万2523人から9万8235人、韓国は5万3358人から7万5065人に増加している。また留学生が最も多い国はインドで、2008～2009年度の米国の総留学生数67万1616人のうち10万3260人を占めた。<sup>(3)</sup>

### b. 主な要因

#### 1. 留学生の枠の競争率の増加

留学生の受け入れを積極的に行っている米国の大学でも、学部入学者に占める留学生の割合は10%前後である。日本人留学生は1994年度から1997年度にかけて、国別では第1位を占めていたが、前述の中国や韓国、さらにはインドなどからの留学生が急増している。他国の受験者が増えても留学生枠はある程度制限されているため、競争倍率は当然上がる。他のアジアの国の優秀な高校生が入ってくるようになったことで、日本人の合格者数が減少したともいえる。

中国や韓国では、トップレベルの高校生は海外の大学に行くのが当然だと考えられている。日本人が東大を目指す感覚で、海外の一流大学が進学先候補に入っているのである。日本より人口が少なく、日本より少子化が進む韓国から42人もの学部生を送り込んでいる。

中国人・韓国人の数が近年増えたのは、経済的・社会的背景があると考えられる。両国とも以前と比べ経済的に豊かになり、人々が海外に出る余裕が持てるようになった。また韓国は日本より少子化が進み、国土も狭く、資源もない。だからこそ、トップレベルの優秀な人々は、海外への志向が強い傾向がある。例えばサムスンなどは海外の大学卒業者をどんどん採用している。だから大学から海外へ出る人々が増えるのである。

日本では日本の大学を卒業して日本企業に就職する、というのがまだまだ一般的であるが、中国や韓国のトップ集団では海外大学卒業者であることはもはや当たり前である。高校生もあらかじめ海外の大学を視野に入れて将来設計をしているため、海外大学進学者が多くなっている。<sup>(4)</sup>

#### 2. TOEFLの試験形式の変化

2006年7月、世界165カ国7000以上の大学が、留学生の入学審査に用いる英語力判定テスト「TOEFL」の試験方法が変わり、「読む」「聞く」「話す」「書く」の4技能統合型の「TOEFL IBT」になった。そして、従来の「TOEFL PBT」は、2007年に日本では実施されなかった。「TOEFL IBT」になり全体的な難易度が高まった上、日本人が得意だった文法問題が外された一方、スピーキングが追加され、日本の高校生にとっては、受験の精神的ハードルが高まった。

TOEFLは海外大学受験の際の英語力の合格判定基準となっている。例えば、アイビー・リーグ校であるブラウン大学は、受験生への要求レベルはTOEFLで100点以上を課している。しかし、TOEFL100点というのは、英検1級レベルをはるかに超える英語力が必要である。インターナショナルスクール出身でもない普通科の高校生が大学受験時点でTOEFL100点というのは、日本における一般的な英語学習では非常に難しいと言える。

## 2. イギリス

### A. 教育制度

イギリスの大学教育はハイヤー・エデュケーション（Higher Education）と呼ばれ、学士号以上のコースを提供している。総合大学であるユニバーシティ（University）は100校で、1校を除いたすべてが公立である。

#### 1. 公立カレッジ

イギリスの公立カレッジには、主に職業訓練コースを提供するファーザー・エデュケーション・カレッジ（Further Education College）と、学士号を含む高等教育を提供するハイヤー・エデュケーション・カレッジ（Higher Education College）がある。

ファーザー・エデュケーション・カレッジは、地域の職業教育と社会教育を行う機関で、16歳から入学できる。言わば、総合専門学校のようなもので、職業に直結した国家資格取得を目的としたコースが多い。まったくの初心者から手に職をつけることができ、なかには、HND（Higher National Diploma）やFoundation Degreeといっ

た国家資格を取得して、提携大学に編入するコースをもつ学校もある。

一方、日本でいう大学にあたるハイヤー・エデュケーション・カレッジは学士号取得を目標としたコースがメインである。College of Further & Higher Educationとして、専門コースとアカデミックコースの両方を提供する学校も多い。なお、学士号と修士号を授与できる課程をもつユニバーシティ・カレッジと呼ばれる高等教育機関もある。公立カレッジへの留学は、短期間で手に職をつけたい人、専門技術と知識を大学レベルまで高めたい人に向いている。

## 2. 芸術系の大学の充実

イギリスは、ファインアートやハードロックを生み出した芸術の国としても知られており、「創造すること」を大切にす国である。芸術系の学校もたくさんあり、とくにファッションやデザイン、音楽といった、クリエイティブな分野が充実している。ファーザー・エデュケーション・カレッジは、地元密着・職業直結型の教育機関で、イギリス人は16歳以上で入学する。ハイヤー・エデュケーション・カレッジは、18歳以上のため、留学生はファウンデーションコースを経なくてはいけない。芸術系の大学は、出願も入学審査も他学科とは違い、作品提出や実技が試験に含まれている。

## B. 費用

イギリスの大学に留学する場合、1年間あたりの留学費用は都市部でだいたい300～400万円、地方都市で250～300万円がひとつの目安となります。この費用には入学申請料、授業料、教材費、滞在費、医療保険料、娯楽費、交通費、渡航費など様々なものが含まれるが、なかでも授業料、滞在費が大きな割合を占める。滞在費については地域によって違いがあり、金額にも幅が出てくる。<sup>(5)</sup>

### 1. 授業料

留学生の場合、授業料支払いは前払いで行われる。また教育機関によっては、学生団体の会員費、図書館や研究室の費用、スポーツ施設費用等の学生生活に関連するその他の費用を追加で課す場合

もある。またコースによっては旅費、書籍代、文具やその他必要な物品の費用など特定の経費に関する支払いを要求する場合もある。これらの費用はコースや機関により異なるが、平均値は以下の通りである。

ファンデーション・スタディ

：年間£5,000～£10,000

学士号：年間£6,250～£7,650

(人文、商業、経済、法律のコースなど)

：年間£8,000～£10,000

(科学、工学のコースなど)

：年間£7,000～£18,000

(医学系のコースなど)

Postgraduate Diploma

：年間£6,500～£10,000

修士号：年間£9,000～£16,000

## C. オックスフォード大学・ケンブリッジ大学

オックスフォード大学とケンブリッジ大学はイギリスでもっとも古く、もっとも権威ある2つの大学で、他の大学と異なる点が多い。オックスフォード大学の創立は1214年、ケンブリッジ大学の創立は1284年とされている。いずれも30を超えるカレッジのうちの最初のものが創立された年で、その後の長い歴史によって現在のよう大きな規模になっている。人文科学のオックスフォード、自然科学のケンブリッジとも言われるが、両校ともさまざまな分野にたくさんの傑出した人材を輩出している。スポーツの対抗戦では、ダークブルーのオックスフォードとライトブルーのケンブリッジとの応援合戦も話題となる。オックスフォードはロンドンの北西に、ケンブリッジはロンドンの北に位置する古都で、石造りの美しい大学の建造物はイギリス観光の主要なスポットにもなっている。入学難度はもちろんAAA。イギリスの大学共通入学願書受付機構であるUCASに出願するほかに、もう一通直接願書を提出させるという格式を誇り、また両大学に同時に入学はできないしくみだ。高校卒→ファウンデーションコース→オックスブリッジというステップは不可能に近いが、日本の大学卒や大学院からは数多くの留学生が在籍している。<sup>(6)</sup>

## 1. 教養教育

教養教育とは、それ自体何らかの職業に向けて学生に準備させるものでなく、かれらの道徳的・知能能力を、その使途する目的に関わりなく発展させるように意図したものである。「教養性」はまた、とらわれのなさとか精神の寛大さといった道徳的資質—かなり以前の時代の宮廷文学や宮廷人の理想から受け継がれてきたジェントルマンの特質—とも関連があった。<sup>(7)</sup>

オックスフォードやケンブリッジで教育を受ければ、パブリック・スクールでの教育や所領の購入と同様に、ジェントルマンの刻印が刻まれる。オックスフォードおよびケンブリッジ両大学のいずれかで学ぶことは、ピール家やグラッドストーン家のような新興の産業・商業資本家階層の第二第三世代の家族が、イギリスの最高位の社会階層に参入し、そして実際それを支配するメカニズムとなっていた。

しかしながら19世紀の間に、教養教育という言葉が含意する資質についての概念に変化が生じた。シェルドン・ロスブラットによれば、それは「社会的ないし社会・道徳的資質から知的資質へ」として特徴づけられる変化であった。心理学的な根拠に基づいて教養教育は、記憶力を訓練すると同時に合理的な思考・分析の習慣を涵養するものだと考えられた。

ただしその場合、精神を研ぎ澄まし、豊かにするのにどのような学問が最も適しているのか、どの学問を重視するかについては大学ごとに異なる伝統が存在した。オックスフォードでは古典学を重視し、一方ケンブリッジではまず純粋数学、それに副次的なものとして古典学を重視した。<sup>(8)</sup>

教養教育の内容の大部分はまた同時に、学生が卒業後に進む最も一般的な職業、つまり国教会の聖職に直接応用しうるものだということである。事実、18世紀後半および19世紀前半において、ケンブリッジの卒業生の半数、そしてオックスフォードの卒業生の三分の二は聖職界に入っていた。<sup>(9)</sup>

## D. ロンドン大学

オックスフォードおよびケンブリッジ両大学が専門職業教育をないがしろにして非国教徒を締め

だした状態で、立地としても都市から遠く離れたイングランド南部の農村地域であったため、地方都市に市民の為の新しい大学の設立の動きが生じた。

都市の大学のうち最も重要なものはロンドン大学であった。ロンドン大学の設立のアイデアは、スコットランドの大学やナポレオン戦争後のプロシアにおける高等教育の復興およびバージニア大学の影響のもとに、詩人トマス・キャンベルによって提唱された。ロンドン大学は、キャンベルの言葉でいえば、「わが中流階級の裕福な人々の子弟に、効果的かつ様々な方法でリベラル・アーツと科学を教授し、試験し、試験合格者に対して栄誉の証を授与する」<sup>(10)</sup> 場をめざしていた。

1836年、ロンドンに設立された最初のカレッジはその名称を「ロンドン大学」からユニバーシティ・カレッジへと変更し、同年授与された設立勅許状によって新たなロンドン大学が誕生したが、これは、その構成カレッジとなったユニバーシティおよびキングズの両カレッジの学生に試験を実施し、合格者に学位を授与する団体であった。キングズ・カレッジの場合には、その人文学専攻の学生をオックスフォードやケンブリッジに送ってそこで学位を取得させるようにするなど、ブルームズベリに位置する対抗カレッジとは大きく異なる点を強調している。<sup>(11)</sup>

## E. ダラム大学

ロンドンのユニバーシティ・カレッジが宗教上ならびにカリキュラムの点でオックスフォードとケンブリッジ両大学に対抗するものであったとすれば、ダラム大学の設立は旧大学流の教育を北部イングランドの若者にも提供しようという地理的な観点から企図されたものであった。

その起源は必ずしも高貴なものではなく、1820年代、国教会はその豊かな富をめぐって批判の目にさらされていたが、ダラムは国教会の中で最も裕福な主教管区の一つであった。<sup>(12)</sup>

ダラム大学は神学や古典学を教授する点ではオックスフォードとケンブリッジ両大学と似ていたが、両大学のそれよりもっと幅広いカリキュラムを提供しようと努めた。とりわけ、工学教育のパイオニアを目指して、北部イングランド地域の

環境に適応しようとしたことは注目に値した。しかし、この試みは将来性を期待されて発足したものの、工学学位という資格が専門職団体から承認されなかったことから、やがて失敗に終わった。

ダラム大学はオックスフォードやケンブリッジの貧弱な模倣と墮し、旧大学に入学するには不十分な能力ないし社会的地位を持たない若者を聖職へ向けて養成する機関となった。オックスフォードとケンブリッジ両大学の改革が進展し、鉄道の発達により立地上の利点が減少するにつれて、ダラム大学の状況は次第に厳しいものとなっていった。<sup>(13)</sup>

#### F. 労働者階級と大学

大学拡張運動が中流階級の顧客を多く惹きつけようといった要求を汲み上げたのはアルバート・マンズブリッジである。彼はバターシー生まれの俗人説教師であり、生活協同組合の事務員で、日曜学校やロンドン学務委員会主催の夜間クラスで教えた経験を有していた。マンズブリッジは一つの信念を持っていた。すなわち、生活協同組合は、労働者の利益のための新しい教育組織において、労働組合や大学と結び付くべきだという信念である。

そして、1903年、27歳の時に労働者教育協会を結成した。労働者教育協会の活動は、大学拡張運動が対象としていたよりも低い社会階層に焦点をあてただけではなかった。それはまた、逆説的だが、はるかに高度な教育水準を目指すものであった。学生は三年の課程（一年を通じ隔週ごとに小論文を執筆することを含む）を履修することになっていたが、これは現代の人文学専攻生が学位取得を目指して学ぶ内容にほぼ匹敵した。<sup>(14)</sup>

#### G. 留学傾向

イギリスの教育機関へ留学する日本人学生の数はこの10年で2倍に増えている。イギリスに留学している学生数は約100万人。このうち70万人は語学留学生。とくに日本人は語学留学生の割合が多く、全体の70%以上を占めている。ただ、近年は大学院や専門学校への留学生も増加してきている。

こうした背景には、政府が中心となって留学生

獲得に積極的に活動していることが挙げられる。例えば1999年から2005年までの間に高等教育機関の留学生数を5万人、継続教育機関の留学生数を2.5万人増やすことを目標としている。<sup>(15)</sup>

### 3. まとめ

近年、多くの大学が定員割れを起こす全入学時代と言われている中でどのように大学の四年間を過ごし、その間にどれだけの物を体得できるかが、これから生きていく中での一人ひとりの指針になると思う。その大切な四年間の経験のひとつである留学はとても大切なものであると考えられる。現在、日本人の留学生数は約7万人と言われており、留学は身近な存在だと感じる。実際、私の周りにも留学を経験した人が多くいる。

今回、世界大学ランキングの上位に君臨するアメリカの大学を始め、君主制の名残から独特な歴史を歩んできたイギリスについて論文を書いたが、知らないことや誤解していることが多くあるのに気づいた。例えば、アメリカの大学の入学は比較的やさしく卒業に苦労すると聞いたことがあったが、そんなことはなく入学難易度も進級するのも大変だと知った。留学が就職活動に有利と耳にすることがあるが、私の経験上生かすも殺すも本人次第だと思う。異文化の国で数カ月生活していく忍耐力や順応性は社会で十分生かせるはずである。ただ、異国の地での生活で日本の素晴らしさに気づくことができるという観点から留学ではなくても、一度海外に行ってみる価値はある。

#### <参考文献>

- (1) 谷聖美『アメリカの大学』（2006年、ミネルプア書房）23頁。
- (2) 同書、24頁。
- (3) <http://news.livedoor.com/article/detail/4723475/>（2012年11月30日参照）
- (4) <http://www.ukeducation.jp/fees/>（2012年12月3日参照）
- (5) <http://wofwofblog60fc2.com/blog-entry-473.html>（2012年12月7日参照）
- (7) <http://www.educationuk.org/Japan/Article/JPART201262429999946>（2012年12月11日参照）



## 外国の教育事情に伴う留学の傾向

- (7) M.サンダーソン『イギリスの大学改革 1809-1914』（2003年、玉川大学出版部）6頁。
- (8) 同書, 7頁。
- (9) 同書, 8頁。
- (10) 同書, 66頁。
- (11) 同書, 67, 68頁。
- (12) 同書, 68頁。
- (13) 同書, 69頁。
- (14) 同書, 156頁。
- (15) <http://www.appliesl.com/navi/step/article.asp?tid=02010&lid=2> (2012年12月14日参照)

## &lt;参考画像&gt;

- (表1) [http://www.ryugakusite.com/university\\_ranking\\_usa.html](http://www.ryugakusite.com/university_ranking_usa.html) (2012年11月30日参照)